



ひきよせ

心を磨き 一步前進 全教会 布教推進月間



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

九月 月次祭の様

9月の月次祭の日、岩見沢は秋の天気で、心地のいい風がゆつくりと吹いていた。神殿には先日出直された、藤田文雄前会長の写真が飾られ、まるで参拝者を優しく見守るような穏やかな笑顔に、集い来る参拝者は顔を綻ばせた。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りつとめ・十二下りのてをどりが勤められた。

講話には由仁分教会後継者・大橋宗春さんが立ち、「今からもう13年前になりますが、私の父、大橋光春さんは平成23年の9月23日に出直しました。享年66歳でした。

大橋光春さんは由仁四代会長の長男として生まれ、小、中と学校を出て、栗山の小林酒造に、勤めていたのですが、私のひいおばあさんにあたる、志げりさんが「長男は学校に行かせないといけない」という話をしていたので、働きな

お知らせ

月次祭 新穀感謝祭
秋季霊祭
少年会冬のお楽しみ会

11月15日(金) 9時半開扉献饌
月次祭終了後
11月30日(土)

がら、夜間高校に通い、無事卒業されました。卒業された後も、小林酒造で働いておりましたが、意外と若い頃は短気だったというところです。その後、縁あって、兵庫県西脇市にある、西脇紡績に勤めることになりました。その後も兄弟がまた、西脇の方に行くことになって、結構大勢で、兄弟でその会社に勤めていたそうです。

勤めた中で父・光春は指示を出すような立場にまでなった、とも聞いています。兄弟の方々も西脇に行きましたが、給料日になると、お兄ちゃんが来る。取り立てと言いますか、兄弟のところには給料日には来るということで、布団に隠れて逃れようとしたそうです。全部が全部持つていかれたわけではないのですが、なんとか教会の力になるう、ということ、兄妹の給料の一部を集め、教会にお供えされたのかなと思います。

光春さんは32歳の時に結婚しました。お相手の富子さんは28歳でした。その3年後に私が生まれ、妹の百合子と二人兄妹でした。私が子どもの時は昔の方ですから、厳しいところは厳しかったです。特に食事の文句を言ったものなら、とんでもない。神殿の裏に暗い納戸があつて、そこに首根っこを掴まれて、しょっちゅう入れられた記憶があります。まして、私も幼い時はすぐ泣き虫で、私の父も苦労したと思います。ある時、上級・栗山の月次祭に行った際、同年代の子ども達と遊んだ時、ちよつとしたことで、私が泣くんです。それを偶然見たうちの父が、他の子を注意してくれた、ということが、当時子どもながらに父親としてなんか嬉しいな、っていう気持ちこそその時思いましたね。守ってくれた、っていうのが心にも残っています。

趣味が多い人ではありませんでしたが、ちよつと厄介な趣味と言いますと、折り紙がわりかし好きでした。手先は本当に器用だと聞いています。ご飯を終えた光春さんが、後ろから作った飛行機を飛ば

していて、食卓の食材の中に入るとか、そういうのが多々ありましたね。幼少の頃は厳しい父親でしたけども、少年のような心も当然あったかと思えます。

ありがたいことに、私も3人の

子供に恵まれました、幸せに暮らしております。長女が赤ん坊の頃、長女がお腹を下してる時に、私がおむつ交換をしていた時がありまして。次の新しいものに履き替える時に、私、浴びちゃったんですね。近くにいた父親に助けを求めたんです。なんか拭くものをくれ、とアピールすると、父は確かに何かを取りに行きました。でも、持ってきたのはカメラでした。私の姿を撮るためにカメラを持ってきた。それで、ニコニコ笑いながら撮るわけなんですよね。こちらからしたら、早く取って欲しいんですけども。常に父はニコニコと、暖かい心で包んでくれてたな、ということ、今も本当に実感しております。

そんな道一条の父親でありましたけど、平成23年の9月、体調がすぐれないと言いました。8月、9月あたりは割と御用が多くて、疲れているのかなというような認識でした。いつもとは違うような様子で、栗山の病院で調べてもらっ

たら、うちの病院では、ということで紹介されたのが札幌の医大病院でした。そこで検査をしたところ、肝臓の数値が飛躍的に高く、劇症肝炎という難病の一つだと言われました。

本当に1週間もつかどうか、という肝臓の病気だそうです。B型肝炎ということ、このウイルスも、体力があるうちは本当に眠っていてくれるようなウイルスだそうで、忙しい時期で、体力が落ちてしまつた時に、ウイルスが暴れようみるみる進行していったようです。



その中で、いろんな教会関連の

方、またいろんな方々にお願いとめ、お心掛けいただきまして、なんとか、という心で親神様に私もお願いさせていただきましたが、残念ながら出直しをしたのですけども、1週間だった余命を1ヶ月に伸ばしていただきまして、その間にいろんな方と会えたんですね。

考えると、伸ばしていただいたのは親神様の思いだったのかな。どうなのかなって。周りからは、光春さんのような人がなぜこういう風になつてしまうのか？っていう方も当然おられますし、親神様の深い思いとしては、この出直しを通して周りの成人を促してるんだよ、っていう方も当然いるわけでありませう。

今思えばどちらも間違いではないと、今は思います。

本当にうちの父は、皆さんにつくづく愛されていたな、っていうことも、感じさせていただきました。最後になりますけども、うちの父親は由仁分教会の教会長であり、それと共に良き父親だったな、と本当に誇りに思います」と語った。

その後、全員で前会長様の霊様に黙とうを捧げた。大教会長はあいつで「19日に、前会長さんが身上になり、緊急の手術となつてから12日間にわたりまして、多くの方々の真実のお願いとめをしていただきました。また、大橋宗春さんもお話をしてくださったように、親神様に命を伸ばしていただきました。心臓の血管が破れる病気ですから、あの日でもう駄目

だったかもしれない。それを皆様方の真心のおかげで、親神様に伸ばしていただきました。本当にありがとうございました。

18日、父と母は、いつも通り札幌へ行き、東京から2人の姉が帰ってきていたので、4人で祭典の準備をして、夕食を囲んでいました。いつになく父が輪をかけて、嬉しいな、ありがたいな、って話をしたそうなんです。

そして次の日の朝、胸そして背中に、強く差し込まれる痛みを前会長さんは感じられたと。そしてまず母を呼び、母がおさづけを取り次いだ。そこで父が『これは大動脈解離かもしれない。命に関わるかもしれない』ということ漏らしたそうなんです。携帯電話で自ら救急車を呼び、救急車にも自分で歩いて乗って。駆け付けた救急隊員に、父は即座に『大動脈解離だと思ふ、なので循環器系の病院に』と言つたそうです。そのお陰もあつてか、道内で有数の心臓血管外科のある、徳洲会東札幌病院に搬送されました。

医師の診断は、前会長さんの仰る通り、大動脈解離で、すぐさま手術という事になりました。月曜の朝という事もあつて、大抵の先生が揃っていたので、万全の体制

で手術に向かう事が出来ました。前会長さんは、手術室に入るまではつきり意識もありました。居合わせたうちの姉と、駆けつけてくれた幌都の会長さんに『行つてくるとい、意識もすっかりしていました。』

手術は午前10時台から始まり、約10時間ほどかかりました。悪いところを全て人工の血管に替え、心臓の弁も少し悪くなつていたので、そこも切り取つて人工の弁に取り替えました。無事に手術は終わりましたが、夜中の2時頃、出血が止まらないということで、もう一度開腹をして止血をしました。無事に血が止まった、と連絡をもらったのが、20日の朝6時頃です。その間、私たち家族は、生きた心地がしなかつたんですが、ようやく一安心してました。

しかし、11時頃にまた電話が来て、容態が急変したので、直ぐに来てください、との事でした。突然容態が変わり、心臓が2度止まりました。なんとか蘇生をして、持ち直していただきましたが危険な状態である事は変わりませぬ。ご家族は誰でも来てください、と言われました。

最後に何かしてあげたいことはありませんか？と聞かれたので、お

さづけというお祈りをさせて下さい、とお願いですと、ICU（集中治療室）の中に入れてもらって、おさづけを取り次がせてもらえませんでした。そこで、どうか皆様一緒に祈ってもらえませんか？というメールを急いで夕張の先生、教区や支部の先生、父のお友達、皆さんに送りました。

その時はもう、血圧が普通は120以上ないといけないのが、上の血圧が50と低く、耳から下が冷たくなっていたんですね。なんとか、という思いで、おさづけを取り次ぎました。父に『ここにいる人たち、にをいかけろ』と言われたような気がして、大声でおさづけを取り次ぎました。

一度病室を離れて、ICUを出たら、主治医の先生が立っていました。『血圧が上がってきましたよ。これなら持ち直すかもしれない』って言うので、おさづけを取り次ぎました。それから10日間。力の限り生きていただきました。

日を追うごとに、お願いごとめをしてくださる方は増える一方で、最後には、あちらこちらで十二下りのおつとめをつとめていただき、最後は先生方が大教会に集結してくださり、お願いをしてくれました。教務支庁でも、父が

教区長を務めていた頃の青年・女子青年が集まって、十二下りのお願いごとめを勤めてくれました。



今なら、こう思います。前会長さんはその身を使つて、私たちが命がけのおつとめを勤めるのを待っておられた。真剣に親神様にもたれて、十二下りのおつとめを勤める姿が親神様や前会長さんのお望みとなる、私たちの心の姿だったのかなど。それまで神様が命を持たせてくださったのかな、と悟らせていただいているところです。

前会長さんがひきよせ4月号に、なんと出直しのことを自分で書いています。『助け合つて陽気に暮ら

すが、人間の生きる目的と教えていただくので、私もそこを目指しています。生きている間、人身体を神様から借りています。感謝して精一杯生きて、神様にお返しする時には、お礼で終わりたいと思います。そして、再び身近なところに生まれ戻つてくる教えです。これは証明できないことですが、人は必ず命に終わりが来るけれど、死ぬことが終わりではないという変わるのですから、死ぬことを直すという前向きな言葉で表します。新たな出発です。』と自分で書かれました。お見事な前会長さんでした。

父が出直してすぐ、お身体を綺麗にしますので、お待ち下さい、と言われたので、待合所に移りました。そこで、姉のひとみちゃんと言ったんです。みんなの頭を撫でたり、肩をポンポンしたりしてるのを、見たんだって。すごいね。早速僕らのこと慰めてくれてたみたい。僕は何も見えないし、何も感じないけど、孫が見てくれたんなら、よかつたな、と。

葬儀が終わって2日後の9月4日の事でした。大教会では、岩見

沢組の組例会が終わった3時頃、次男の雄大が、会長宅からホールに向かうとおじいちゃんの姿が見えて、『おじいちゃんがいなくなる前に何かあげたい』と思ったそう、冷凍庫からアイスを一本持つていって、包みを取つて『おじいちゃんアイス食べる？』と言つて差し出したら、じいちゃんの『お甘い』つという言葉が聞こえたそうです。それを聞いて、そうか、どこにも行つてなかった、ここにいってくれた。しかも食べれるように出したら、パクつて食べるんだ、と思つたわけです。

そんな風の子供たちが『じいちゃん見たよ』と教えてくれたので、悲しい気持ちを少し拭つていただけたような思いが、今はしております。

葬儀から初めて、父のことに触れてご挨拶をさせていただきました。この写真は3年前、最後に神殿当番をされた日の写真です。前会長さんは前々会長、増平会長さんに同じことをしてたんですよ。増平会長さんの追悼号にある、神殿をバックに撮った写真は、父が増平会長の最後の当番の日に撮ったんです。それを覚えていたので、父の最後の当番の日に撮りました」と話された。

全教一斉 にをいかけデー 全教会布教推進月間

教祖140年祭へ向かう中で、教会を拠点とし、一人でも多くのようぼく・信者が実動することを目指して、今年と来年の9月は「全教会布教推進月間」として本部よりお打ち出しされた。

夕張大教会では、15日月次祭終了後、国道交差点で神名流しをし、各自帰りの道中でリーフレット配り等、実動した。(1P写真)
また、例年通り9月28〜30日の、にをいかけデーでは道内各地で支部、組の単位で実動。南空知支部では大教会から岩見沢駅まで神名流し後、路傍講演、リーフレット配りを行い、道行く人に教えを伝えた。
(藤田豊)



札幌では、大通公園、JRの駅や病院前、市内各所で路傍講演等を行った。



10月6日に放送されたテレビ東京の番組「家、ついて行ってイイですか？」に、松崎智さん（ようぼく・直轄）が出演し、横浜市内にある自宅マンションで取材に応じた。



松崎さん夫妻は、横浜のみなどみらい駅近くで犬の散歩中、番組スタッフから「家ついて行ってイイですか？」と声をかけられ、快く取材を承諾。智さんは『横浜系ラーメン銀屋』など、神奈川県と北海道に12店舗のラーメン店を経営している。天理高校を卒業後は医師を志したが、断念。その後ラーメン店を開業するに至るまでの経緯や、これまでの半生について振り返り、紆余曲折の道のりや両親への感謝、そして今後の夢について語った様子が放送された。放送中さり気なく、「おさづけの理拝戴」の写真や、教服姿の文

雄前会長の写真が映ったので、それを見た大教会長が、これはきつと、智さんから前会長への恩返しなのではないかと思ひ、放送後すぐにお礼の電話をかけると、「その通りです。前会長さんに長年お世話になった信者としてせめてものに在いがけの気持ちでした。分かる人には分かる筈だと思ひましたので。」と智さん。「そもそもTV取材に引き合わせてくれたのが前会長さんだったのかも知れません。」と語ってくれた。札幌市には「宮の森本店」と「東苗穂店」の2店舗があり、興味のある方はぜひ足を運んでほしい。

（藤田豊）

第3回 ようぼく一斉活動日

11月3日（日）もしくは4日（月・祝日）

ようぼくのみなさま、ぜひご参加下さい。

日時・会場は所属の教会にお尋ね下さい



さらにタイムリーなことに、置いてあった地元新聞『週間みなみ空知』の一面に彼らを発見。なん

こと。聞くと、彼ら全員『教育大学岩見沢校バスケットボール部』とのリピート来場。

また、前回3月開催時、呼び込みで入ってくれた大学生が、『とても美味しかった、また来ます』との言葉通り、友達を誘い6名でのリピート来場。

当日は子ども28名、大人23名が来場。シエフにゃん（子ども食堂スマイルキャラクター）特製カレーは世代を問わず大好評。食後にはホールで射的遊びのプレゼントもあり、教会に笑顔が溢れた。

去る7月6日土曜日、前会長夫人主催の『子ども食堂スマイル』が19回目の開催を迎えた。

岩見沢教育大生がリピート来場



『子ども食堂スマイル』でいつか勝利の報告とともに、彼らの笑顔を見られることを願う。（百代）

しかし、『トップレベルに全力で挑む』清水主将のその言葉通り、メンバー全員、持てるすべてを『全力でぶつけた』試合だったに違いない。

どちらを応援したものか、運営スタッフの胸中も悩ましいところ。結果、試合は44対96で天理大学の勝利。天理大学は関西予選2位の実力校。

9月1日 前会長、葬儀（2日）

庶務部	9月
▽話所教養掛	
10月 藤崎 勇（旭都）	
11月 渡部辰大（善進道）	

大教会日誌抄

- 9月
- 1日 前会長、葬儀（2日）
- 8日 前会長十日祭
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 17日 会長夫人、札美へ（19日）
- 18日 前会長二十日祭
- 19日 会長、札美月次祭
- 23日 会長、兵神参拝、おちばへ
- 24日 会長、本部神殿当番
- 25日 会長夫人、おちばへ
- 26日 本部月次祭、遥拝式
- 27日 本部秋季霊祭
- 会長、かなめ会
- 会長夫人、本部婦人会例会
- 28日 会長夫妻、帰会
- 前会長三十日祭

にをいがけ実動について

◇活動報告

日時：9月30日 10時～15時

場所：岩見沢市内

参加人数：1名

内容：神名流し、戸別訪問（30件）

◆次回以降実施予定

日時：10月31日 10時～15時

11月23日 10時～15時

集合場所：夕張大教会